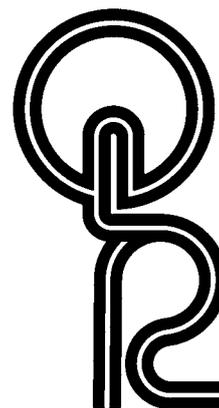


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 32 No.1, 2025



西岸側にある比良山地からみた琵琶湖。1980年代に世界に先駆けて湖沼での長尺ボーリングが行われるなど、その堆積物は日本の中期更新世以降の陸域におけるスタンダードの一つとなっている。昨年、第79回国連総会において、第1回世界湖沼会議が滋賀県で行われた日にちなみ、8月27日が「世界湖沼の日」(World Lake Day)として制定された。(2022年10月 里口保文撮影)

Vol. 32 No. 1

February 1, 2025

新名誉会員から.....2	海洋コア岩相記載武者修行イベント報告..... 6
2025年大会案内(第2報)..... 2	評議員会案内..... 8
JpGU2025案内(第2報)..... 3	2025-2026年度役員選挙の予定..... 8
学会賞・学術賞受賞記念講演会案内..... 4	評議員会議事録..... 8
学会賞・論文賞等推薦のお願い(再掲)..... 5	執行部会議事録..... 9
	学会HPリニューアルのお知らせ...11
	会員消息.....11

◆日本第四紀学会名誉会員に選出いただいて

竹村恵二

2024年の第四紀学会大会（仙台大会）において、第四紀学会の名誉会員に選出いただき、ありがとうございます。感謝いたします。

第四紀学会では、1975年の金沢大会からほぼ50年お世話になりました。この間には、第四紀通信での選考文で紹介いただきましたように、第四紀学の特徴である多方面の学問からのたくさんの経験をさせていただきまし、多くの研究者との共同研究を実施できました。

名誉会員は、「会長、学会賞・学術賞受賞者などとは異なり、個人のみならず日本第四紀学会にとっての名誉として位置づけ、その候補者を選考するものとする。」ということで推薦いただきました。

私自身が学会へ貢献したとすれば、学会誌第四紀研究への論文投稿、関西や九州での大会準備開催やシンポジウム、編集委員会の幹事として特集号などの編集、副会長時の評議員選挙での出身学問分野評議員から領域評議員への変更やINQUAの名古屋大会などが挙げられるかもしれません。今回同時選出の辻 誠一郎さん、功労賞の河村善也さん、学会賞の高原 光さん、学術賞の加三千宣さんなどのお付き合いも懐かしく思い出されます。

現在は、大分でのジオパークや文化的景観、別府でのバーチャル博物館などの活動からの地域の



自然や文化的資源に基づく活力の底上げに注力していますが、地域の方々の協力などが大きく必要であることを痛切に感じながら、定年後の生活をじっくり・ゆったり・たんと過ごさせていただいています。

学会活動は時代と共に課題を抱えながらの活動になりますが、第四紀という時間の中で自然や人間活動を取り扱う総合的学問体系としての第四紀学をになう第四紀学会は今後とも、特に世界的な課題に取り組む研究者グループとして、環境・災害や減災・文明観など重要な役割が要請されると考えます。

今後の学会の発展を祈念して今回の第四紀学会の名誉会員選出のお礼の挨拶といたします。

◆日本第四紀学会 2025年大会案内（第2報）

日本第四紀学会 2025年大会は以下の日程で開催予定です。ただし、今後の社会状況によっては、一部変更・中止になることがあります。

日程：2025年8月28日（木）～9月1日（月）

8月28日（木） 専門巡検1コース（植生史学会との共催）

8月29日（金） 一般研究発表（口頭及びポスター）

8月30日（土） 一般研究発表（口頭及びポスター）、総会（ハイブリッド形式）、懇親会

8月31日（日） シンポジウム／普及講演会（公開／ハイブリッド形式）

9月1日（月） 専門巡検2コース（大山の火山灰ほか、三瓶小豆原埋没林とたたら）

会場：島根大学松江キャンパス（島根県松江市西川津町 1060）

開催方法：完全対面方式（一部ハイブリッド形式）を基本とします。

大会実行委員長：齋藤文紀（島根大）

実行委員：瀬戸浩二、香月興太、入月俊明、酒井哲弥、渡邊正巳（島根大）、中村唯史、井上雅仁（三瓶自然館）、石賀 敏（鳥取地学会）、池原 実（高知大・行事委員長）ほか

◆日本地球惑星科学連合 2025 年大会のお知らせ（第 2 報）

日本地球惑星科学連合 2025 年大会（JpGU2025）は、2025 年 5 月 25 日（日）から 5 月 30 日（金）までの 6 日間、現地開催（会場：幕張メッセ）とオンライン開催をミックスしたハイブリッド方式で開催されます。JpGU2025 でも昨年に引き続き、大会参加予定のすべての皆様に対して、大会参加プラットフォーム「Confit」が準備されます。「Confit」にログインすることで、セッション情報や発表情報・資料等が掲示されるとともに、タイムテーブル上の Zoom リンクから各セッションに簡単にオンライン参加することができます。

次回開催となる JpGU2026 が AGU とのジョイント開催となる関係で、JpGU2025 でも英語セッションの開催が推奨されましたが、今回は「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」は日本語または英語使用とし、第四紀学会関連の英語セッションとしての役割を「人新世・第四紀の気候および水循環」に引き受けていただくことになりました。また、本学会の学協会セッションとしては指定されていませんが、パブリックセッション O-10「阪神・淡路大震災から 30 年—教訓と進展」が防災学術連携体の共催で開催されます。

JpGU2025 へのご参加及び発表を、よろしくお願いたします。

【日本第四紀学会の関わる学協会セッション】

H-QR05「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」

口頭発表：5 月 29 日（木）の AM1-AM2、ポスター発表コアタイム：5 月 29 日（木）の PM3

S-SS14「活断層と古地震」

口頭発表：5 月 26 日（月）の AM1-PM1、ポスター発表コアタイム：5 月 26 日（月）の PM3

U-02「人新世・第四紀の気候および水循環」

口頭発表：5 月 28 日（水）の PM1-PM2、ポスター発表コアタイム：5 月 28 日（水）の PM3

H-DS11「人間環境と災害リスク」

口頭発表：5 月 25 日（日）の AM1-AM2、ポスター発表コアタイム：5 月 25 日（日）の PM3

A-HW27「流域圏生態系における生物多様性・栄養循環・物質輸送」

口頭発表：5 月 29 日（木）の AM1-PM2、ポスター発表コアタイム：5 月 29 日（木）の PM3

※ それぞれの時間帯は以下のとおりです

AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-19:15

※ポスター発表のショートトークは、今回はありません

【発表の概要】

口頭発表：現地、あるいはオンラインから Zoom 経由によるライブ発表（ハイブリッド）

ポスター発表：オンライン掲示が必須、現地での発表は任意

※ポスター発表で学生優秀発表にエントリーする場合、現地でポスターを掲示し審査を受ける必要があります

【今後の主な日程】

投稿受付締切：2 月 18 日（火）17:00

早期締切：2 月 6 日（木）23:59

学生優秀発表賞エントリー受付締切：2 月 20 日（木）23:59

プログラム公開：3 月 28 日（金）

発表者参加登録締切：4 月 17 日（火）

【投稿料】

早期投稿料 ¥6,600（税込）/1 件

通常投稿料 ¥8,800（税込）/1 件

※ 投稿料の早期割引は、早期締切までに決済を完了された場合のみ適用されます

※ 早期投稿の場合も、投稿内容の変更・修正は最終締切まで可能です

※ 最終投稿締切後は、一切の変更・修正が出来ません

【参加登録料】

大会参加登録料は、現地参加・オンライン参加の区別なく全日程のみの料金となります（1日券はありません）。

<一般>

会員割引料金：¥25,850（税込）/ 正規料金：¥36,850（税込）

<大学院生・シニア（JpGU 正会員のみ）>

会員割引料金：¥12,100（税込）/ 正規料金：¥17,600（税込）

※小中高教員の正会員は当面の間は無料（非会員の正規料金：¥17,600（税込））

※学部生以下の方の参加費は全日無料です。セッションも全て聴講できますので、ぜひご参加ください

詳細および最新情報は、JpGU2025 ホームページ（http://www.jpгу.org/meeting_j2025/）をご確認ください。

◆ 2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会のお知らせ

- ・日 時：2025 年 2 月 22 日（土）9:00～12:05
- ・開催形式：Zoom によるオンライン講演会、無料（非会員の方でも参加できます）
- ・申し込み方法：

以下のリンクにある申し込みフォームから、2月21日（金）までに事前登録を行ってください。登録後、Zoom からミーティング参加に関する情報の確認メール（件名：第四紀学会受賞記念講演会確認）が届きますので、その情報を各自で保存して利用してください。

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZMtceyrT8sHNbSkgs0EEw7mk67iW1hx14w>



- ・プログラム：
- 9:00～9:05 開会挨拶（鈴木会長）
- 9:05～9:55 学会賞受賞講演 高原 光会員「さらに詳細な古植生復元をめざして」
- 9:55～10:00（休憩）
- 10:00～10:50 学術賞受賞講演 加 三千宣会員「別府湾堆積物研究から人新世の科学的根拠に至るまで」
- 10:50～11:00（休憩）
- 11:00～11:50 学術賞受賞講演 田村 亨会員「砂質海岸堆積物の年代測定から何がわかるのか？」
- 11:50～12:00 2024 年大会（東北大）若手・学生発表賞の紹介
- 12:00～12:05 閉会挨拶（副会長）

◆ 2025 年日本第四紀学会学会賞・論文賞等の推薦のお願い

「日本第四紀学会会則」の第 3 条 (3) に基づき、2025 年日本第四紀学会学会賞（以下、学会賞）、日本第四紀学会学術賞（学術賞）、日本第四紀学会若手学術賞（若手学術賞）並びに日本第四紀学会論文賞（論文賞）、日本第四紀学会奨励賞（奨励賞）の受賞候補者の推薦募集を行います。前 3 賞は学会賞選考委員会が会員からの推薦をもとに受賞候補者を選考し、後 2 賞は論文賞選考委員会が会員からの推薦を参考に受賞候補者を選考します。最終的に 2025 年 6 月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2025 年大会で表彰される予定です。会員のみならず多数のご推薦をお待ちしております。

なお、推薦にあたっては、学会 HP の「会則・規則」のページ (<http://quaternary.jp/intro/rules/rules.html>) に掲載されている「日本第四紀学会顕彰規程」及び関連する内規をご参照の上、下記に従って推薦書類をお送り下さい。また、過去に受賞した会員は、論文賞を除き同じ賞を受賞することはできませんので、学会 HP の「歴史」のページ (<http://quaternary.jp/intro/history.html>) で歴代受賞者を事前にご確認頂きますようお願い致します。

1. 各賞の概要と推薦書類の記入内容

■学会賞・学術賞

学会賞と学術賞は、第四紀学の発展に寄与する研究や学会活動への貢献を行ってきた会員に贈られる賞です。

学会賞：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

学術賞：第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著書（研究グループ等を含む）によりなされた場合には、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

下記の情報を記した推薦書類を作成して、主要業績リストと併せて日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 学会賞の場合には、具体的な業績や活動内容を示した受賞件名
学術賞の場合には、授賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名
- (5) 推薦理由（1,000 字以内）

■若手学術賞

若手学術賞は国際誌等における研究発表を通して第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた若手会員（2025 年 4 月 1 日時点で 39 歳以下の会員）に授与されるものです。受賞者数は若干名で、受賞対象は過去 2 年間の国際誌等に掲載された論文（オンライン化された論文を含む）の筆頭著者とします。受賞者には副賞として 5 万円の奨学金が授与されます。

下記の情報を記した推薦書類を作成し、推薦する論文の PDF とともに学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 推薦論文題目、論文が掲載された雑誌名および出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日及び DOI
- (5) 推薦理由（800 字以内）

■論文賞・奨励賞

論文賞と奨励賞は、過去 2 年間に刊行された「第四紀研究」（第 62 巻第 1 号～第 63 巻第 4 号）に掲載された論文と著者が対象となります。ただし、編集委員会が非会員や学会賞・学術賞受賞者へ依頼した論

文は対象外となります。

論文賞:会員である論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。対象は掲載された全ての論文(短報を含む)。

奨励賞:会員である筆頭著者に授与。年齢は2025年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。

受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

推薦書類には下記の情報を記し、学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先(自薦を含む)
- (2) 賞の名称
- (3) 論文賞の場合には、全著者名と推薦論文名
- (4) 奨励賞の場合には、候補者名と推薦論文名
- (5) 推薦理由(1,000字以内)

2. 推薦書類の送付先

各賞の推薦書類は、郵送または電子メールで日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。送付先の住所ならびに送信先のメールアドレスは下記のとおりです。

郵送:〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

メールアドレス:daiyonki(at)shunkosha.com (“(at)”の部分をも“@”に変えて下さい)

郵送の場合の宛名は、学会賞・学術賞・若手学術賞の推薦書類については、「日本第四紀学会 学会賞選考委員会」宛、論文賞・奨励賞の推薦書類については「日本第四紀学会 論文賞選考委員会」宛として下さい。電子メールの場合には、上記のそれぞれの宛先名を電子メールの件名に入力して送信して下さい。なお、PDF等のファイルを電子メールで送る場合、その容量が大きい場合(10MB以上)には、ファイル転送サービスを利用して下さい。

3. 提出期限

推薦書類の提出期限は、いずれも2025年2月28日(金)(必着)です。

◆第2回「海洋コア岩相記載武者修行イベント」の開催報告

加 三千宣(愛媛大学)

次世代の地球科学を担う人材育成の一環として、コア試料の岩相記載経験者(博士前期・後期課程、PD、会社員、職員)を対象に、高知大学海洋コア国際研究所において、2回目の岩相記載武者修行イベントを2024年11月16日～19日に開催した(日本第四紀学会・高知大学海洋コア国際研究所主催、日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)・日本堆積学会共催)。時間をかけて各自の岩相記載能力のアップデートを講師とアシスタントがサポートするというものであった。開催後のアンケートでは、すべての参加者から「岩相記載やその後の議論は有意義であった」、「もう一度開催した場合、他の人に強く勧めたい、あるいはむしろ自分がもう一度参加したい」との感想を頂き、参加者の高い満足度が伺える。講師の独自の視点、見事な解説によって、参加者の記載技術のアップデー

ト、自らの記載の自信につながっているなど感じた。今後、岩相記載マスターとして、さらに次の世代にその技術を伝えていける若手が育つ、いい機会になったと思う。



●参加報告

杉山春来（信州大学）

2024年11月16日から19日に開催された「岩相記載武者修行イベント」に参加しました。このイベントは、堆積物の記載に特化したスキルを鍛えることを目的としており、これまで殆ど自己流で記載を行ってきた私にとって、自分の技術を見直し、新たな視点を獲得する絶好の機会でした。

イベントでは、堆積物コアの半割処理作業から体験することができました。半割後のスクレイピングは基礎的な作業ですが、この段階から、道具の使い方や堆積物の扱い方について多くの発見がありました。例えば、堆積面の平滑化の際、スライドガラスとプラスチックカードを使い分けることで観察の質が大きく向上することを学びました。この基礎的な作業が後の岩相記載に直結することを実感し、記載作業の全体像を再認識するきっかけとなりました。本題の岩相記載では、別府湾堆積物のコアと沖縄トラフのコアの計8セクションを対象に、肉眼観察を中心とした記載を行いました。まさに武者修行だなと私が感じたのは、限られた時間内で記載を行い、その中で得られた記載結果を明確に伝える技術が求められる点です。イベントを通じて、私自身の記載の癖や見逃しがちなポイントに気づくことができました。そして、特に私の中でインパクトがあったのは、他のコア記載経験者がコア記載をどのように進めるのか、その手癖のようなものをリアルタイムで見せていただいたことです。参加者それぞれは自分の研究している分野のスペシャリストである分、それぞれの観点から記載を行っており、それぞれの持っている問題意識の在り方を、記載を通じて知ることができました。

記載のあとのグループディスカッションの中でも、多くの学びがありました。私自身、これまで

進捗報告や学会での発表では、一方通行もしくは、一対一の双方向の形になりがちなプレゼンテーションスタイルを取ってきました。その背景もあって、今回のイベントで経験した複数人でのグループディスカッションの形は非常に刺激的でした。複数人のディスカッションでは、適切な間合いで自分の意見を話し、また適切な間合いで引き、相手の意見にしっかり耳を傾けることが大切でした。その中で、頭の中の認識を丁寧にすり合わせていくプロセスは、これまでの一方通行的な発表では得られなかった感覚です。たとえ事実から離れたことを言ってしまったとしても、対話を通して自分の中に存在する思考のバイアスを取り除くことができました。この気づきは、1人では絶対に成しえなかったことです。地球科学という学問分野、ひいては理学には、分野間の断絶とも言えるような隔たりが存在しているのかもしれませんが。そのような断絶を埋めるためには、やはり記載という「原点」を共有し、互いにさらけ出すことが重要なのではないのでしょうか。そんな気持ちを抱くことができた非常に貴重な機会でした。

このイベントを通して、岩相記載は単なる作業ではなく、堆積物の本質を理解するための「探究の第一歩」であると改めて実感しました。同時に、自分の記載スキルを客観的に評価し、改善する貴重な機会となりました。このような素晴らしいイベントを企画・指導して下さった講師の池原研氏（産業技術総合研究所）、加 三千宣氏（愛媛大学）、池原 実氏（高知大学）、鈴木克明氏（産業技術総合研究所）、そして貴重な堆積物試料を提供して下さった大坪 誠氏（産業技術総合研究所）に心より感謝申し上げます。

◆日本第四紀学会 2024 年度第 4 回評議員会の案内

以下の内容で、第 4 回評議員会が開催されます。

日 時：2025 年 2 月 22 日（土）13:00～16:00

方 法：Zoom を用いたオンライン会議

議事内容（予定）：2024 年度事業中間報告・会計中間報告、役員選挙規程の改正ほか

評議員会メンバーの方には、後日メーリングリストを通じて詳細内容をご連絡いたします。会長経験者・名誉会員の方には個別の案内を差し上げておりません。評議員会に参加される方は、2月20日(木)までに下記庶務委員会まで電子メールにてご連絡をお願いします。

メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp [“(at)”の部分を“@”に変えてください]

(庶務委員会)

◆2025-2026 年度役員選挙の予定

本会では2年に1度、役員(会長・副会長・評議員)選挙を実施しています。次期2025-2026年度(2025年7月1日～2027年6月30日)役員を決める選挙が間もなく始まります。会告(選挙方法、定数、立候補・推薦候補の受付期間、投票期間などの連絡)は2025年3月上旬、選挙は4月上旬から下旬を予定しています。詳細は今後ホームページや会員メーリングリストを通じてお伝えします。なお、投票方法は「会員マイページ」からオンライン(web)投票となります。

執行部会や領域を中心とする新しい運営体制に移行して、4期8年目に入っています。残念なことに投票率の低下や、評議員への立候補・推薦候補者数の減少などが目立ち、少なからず学会の正常運営にも影響が出ています。評議員は執行部会が提案する各事業や予算についてチェックするだけでなく、新しい試みや活動についての提案もできます。また、次期役員として学会活動の活性化に寄与する点において年齢や経歴は関係ありません。2026年に70周年を迎える日本第四紀学会のこれからをつくり、担っていただける会員のみなさんから多くの立候補・推薦候補を期待します。

(庶務委員会・選挙管理委員会)

◆日本第四紀学会 2024 年度第 3 回（臨時）評議員会議事録

日 時：2024 年 10 月 26 日（土）14:00～15:20

方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、＜以下、評議員＞水野清秀（議長）、阿部彩子、池原 実、吾妻 崇、苅谷愛彦、久保純子、堀 和明、里口保文、青木かおり、井上 淳、林 竜馬、木村英人、三田村宗樹、山田和芳
委任状：議長委任 16 通

水野清秀議長により開催が宣言され、鈴木毅彦会長の挨拶後、定足数の確認を行った。会議は資料に基づき、主に山田和芳庶務委員長が説明を行っ

た。下記のとおり審議事項はすべて承認された。最後に北村晃寿副会長の挨拶で閉会となった。

報告事項

なし

審議事項

(1) 2024 年度学会賞選考委員会委員の決定について

学会賞選考委員会は会長を委員長、前会長を委員とし、その他の領域から推薦された各1名の委員で構成される。顕彰規程第15条に従い、下記会員を2024年度学会賞選考委員会委員長及び委

員とすることが審議され、賛成多数で承認された。

委員長：鈴木毅彦（会長：領域3）

委員：齋藤文紀（前会長：領域1）、久保純子（領域2）、百原 新（領域4）、三田村宗樹（領域5）

(2) 2024年度論文賞選考委員会委員の決定について

論文賞選考委員会は評議員の中から選出された委員長と、委員長が所属する領域以外の各領域から推薦された各1名で構成される。顕彰規程第16条に従い、下記会員を2024年度論文賞選考委員会委員長及び委員とすることが審議され、賛成多数で承認された。

委員長：前杵英明（評議員：領域5）

委員：奥野淳一（領域1）、吾妻 崇（領域2）、菅沼悠介（領域3）、齋藤めぐみ（領域4）

(3) 2024年度選挙管理委員会委員の決定について

2025-2026年度の役員選挙事務を管理・運営するため、5名の正会員からなる選挙管理委員会が設置される。役員選挙規程第7条に従い、執行部会から2024年度選挙管理委員会委員として下記5名の会員が推薦され、賛成多数で承認された。なお、今年度中の役員選挙規程の改正を考えている旨が懇談事項にて説明されたが、本委員決定に関する選挙管理委員会の構成に関する部分の改正は行わないことが確認された。

委員：酒井恵祐（領域1）、高橋尚志（領域2）、西澤文勝（領域3）、星野安治（領域4）、岩本直哉（領域5）

懇談事項

(1) 評議員数定数について

2022年度選挙管理委員会からの答申を受けて、2023年度中から執行部会にて複数回にわたって役員選挙規程の改正を視野にいたした評議員定数の見直しについて議論した内容、そして2025-2026年度役員選挙から改正ルールを適用させる方針とともに、執行部会が提案する評議員定数の定め方の複数案について説明があった。その後、評議員の方から意見伺いを行った。まず、領域1として不均衡を是正することは同意するものの、大幅な定数減については難色を示す意見が提示された。評議員からは、計算方法として切り捨てではなく、四捨五入することで評議員定数の総数を増やす提案、評議員定数を定める評議員1人あたりの正会員数を減らす提案とともに、常任委員と評議員の関係、学会が領域活動となった経緯、評議員選挙立候補者数の状況、評議員会成立要件の見直し、国際第四紀学連合（INQUA）の状況、他学会の役員選挙の現状などの質問や意見出しがあり、一部執行部会として回答を行った。

また、評議員定数に関して幅広く意見を募るため、第3回評議員会に出席できなかった評議員についてもアンケートを実施して意見をを出していただくこととした。

今後、評議員から出された意見を参考にして、執行部会を複数回開催した上で、2025年2月22日に開催する評議員会にて本件を審議事項として今年度中に役員選挙規程改正を行うスケジュールを確認した。

以上

◆日本第四紀学会 2024年度第3回執行部会議事録

日時：2024年12月8日（日）9:00～12:00

方法：Zoomシステムを用いたオンライン開催

出席者：鈴木毅彦（会長）、須貝俊彦（副会長）、北村晃寿（副会長）、山田和芳（庶務委員長）、堀 和明（会計委員長）、苅谷愛彦（編集委員長）、池原 実（行事委員長）、横山祐典（領域1代表）、吾妻 崇（領域2代表）、里口保文（領域3代表）、小荒井衛（領域5代表）

欠席者：那須浩郎（広報委員長）、白井正明（渉外委員長）、海部陽介（領域4代表）

オブザーバー参加：永峯菜穂子・齋藤咲良（事務局：株式会社春恒社）

冒頭、事務局担当者交代ということで、新担当者の齋藤咲良さんからご挨拶いただいた。

主な報告事項

(1) 正会員（終身会員）の状況を共有した。終身会員適用可能な年度退会者に、同制度の案内を送ることとした。

(2) 社会地質学会から依頼があった第34回社会

地質学シンポジウムを学会共催とした報告があった。

(3) 大阪公立大学から依頼のあったリポジトリ登録について機関リポジトリへの掲載を可としたことが報告された。

(4) 国会図書館から依頼のあった学術情報の収集・保存に関する調査について、学会の現状を回答したことが報告された。

(5) 2024年度第1回業務委託費、学会ホームページ更新に係る費用等を支払った。

(6) 2つの特集号「居家以岩陰遺跡」(工藤雄一郎委員長)、「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」(堀 和明委員長)の編集作業を進めた。

(7) 第四紀研究第63巻第4号および第64巻第1号の編集作業と関連する電子付録掲載作業を進めた。

(8) 2024年12月1日現在の編集状況は、通常号は受理前10編、受理済み1編、一方特集号は受理前8編、受理済み1編である。

(9) 第四紀研究に賛助会員名の掲載を行うための検討を進めていることが報告された。

(10) 本執行部会前にメールにて広報委員長から送付された学会ホームページ更新状況についての情報を共有した。執行部会メンバーも新ホームページを確認しながら進めており、遅くとも2025年1月初旬には新しいホームページに移行できることが報告された。ただし、サーバー更新に際してセキュリティ上の問題が生じており、追加料金の発生や移行が遅れることもあることが報告された。

(11) 2025年2月22日(土)午前に開催する2024年日本第四紀学会 学会賞・学術賞受賞記念講演会のプログラムについて報告された。講演時間や休憩時間など一部修正を加えた最終的なプログラムについて12月中に広報することとした。

(12) JpGU2025の開催セッションとして「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」を登録し、その他4つのセッションを第四紀学会の学協会セッションとして指定した。また、パブリックセッションとして防災学術連携関係で吾妻、卜部両会員がコンビーナを務める「阪神・淡路大震災から30年－教訓と進展(仮)」セッションが開催され、学会としても会員への周知等協力することが報告された。

(13) JpGU学協会長会議が2024年11月27日(水)13:00～14:00にオンライン開催され山田庶務委員長が代理出席した。

(14) 地学オリンピック予選応募者に配付する「地球にわくわく未来ガイド」に掲載する学会案内を作成して掲載手続きをした。

(15) 日本ジオパークネットワーク事務局を通じて依頼のあったジオパーク地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学8：日本列島の大地形の成因について」(開催日：11月22日、形式：オンライン)にコメンテーターとして、山田庶務委員長が代理出席した。

(16) 海洋コア岩相記載武者修行イベント(2024/11/16～19 高知大学海洋コア国際研究所)の開催報告がなされた。活動費の旅費支援により、日本第四紀学会に2名の入会者(大学院生)があったことなど大きな成果が得られたことを共有した。また、第3回の開催についての可能性を探ることにした。

(17) 2025年1月23～25日に開催される北淡国際活断層シンポジウム2025(事務局：奥村晃史会員)についての情報提供がなされた。

(18) 2024年7月に開催した領域2・5合同主催「能登半島地震シンポジウム」の第四紀研究特集号を企画する計画が進んでいることが報告された。

(19) 学会設立70周年記念事業に関して出版する一般書籍本について、原稿提出状況および今後の進め方について確認した。現状では2026年春ごろに刊行できることで進められていることが報告された。

主な審議事項

(1) 継続審議となっていた役員選挙規程の改正について審議した。評議員定数について、第3回評議員会(2024年10月26日開催)での懇談内容やその後実施した評議員アンケート結果を基にして審議した。その結果、評議員数を各領域の正会員数125名以下の場合には5名、126名以上は25名につき1名追加する変更案を承認した。また、第2回執行部会で承認されていた郵便投票廃止、会費未納者や領域未指定者の取扱いに関する内規作成を踏まえた役員選挙規程の改正案を承認した。今後、2025年2月22日開催予定の第4回評議員会にて役員選挙規程改正案および内規案を諮ることとした。

(2) 学会誌「第四紀研究」のカラー印刷料金の値下げについて、印刷業者より印刷システムの入替に伴いカラー印刷料金の値下げが可能との連絡があった。事前に編集委員長、編集書記、会長、副会長が確認し、品質に問題のないことが報告され、審議の結果承認された。印刷料金は1ページあたり42,500円から10,000円(税別)となる。第64巻第1号(2025年2月発行)掲載論文から適用可能として、会員にもメーリングリストを通じて周知することとした。

(3) 古代人のゲノム情報を扱う投稿論文について、

ゲノム情報は公的機関で登録し、登録番号を論文に記載することを必須化することについて審議した。まずは、情報収集として、関連する専門分野に精通する海部領域 4 代表に情報提供いただくこととした。将来的に投稿規定改正を視野に入れながら、引き続き審議を進めることとした。

(4) 生成 AI を利用した投稿論文の作成について、まずは執行部会にてガイドライン策定の有無を含めて情報収集することとした。

(5) JpGU2026 大会では発表言語が原則英語となる方針にあわせて、前回（第 2 回）の執行部会で検討した JpGU2025 大会の主催セッションの発表言語について審議した。その結果、「第四紀」セッションは従来どおり日本語とするものの、「人新世・第四紀の気候および水循環」（コンビーナ：横山祐典会員）を英語セッションとして進めていくこと

が承認された。JpGU2026 大会時の対応は、今後執行部会で検討することとした。

(6) 2026 年に開催する学会設立 70 周年記念大会の開催場所として、70 周年記念事業委員会から、産業技術総合研究所（茨城県つくば市）が提案された。これを審議し、会場については、つくば駅周辺も含めて検討すること、大会実行委員会は産業技術総合研究所所属の正会員を中心にする、日程は 2026 年 8 月 28 日～31 日を予定すること（ただし、つくばまつりとの重複をさけるようにすること）、通常の行事委員会、大会実行委員会による大会開催とは異なり、70 周年記念事業委員会も加えた組織体で実施することが承認された。また、本記念大会を産業技術総合研究所との共催として進める手続きについて確認した。

以上

◆日本第四紀学会ホームページリニューアルのお知らせ

2025 年 2 月より、学会ホームページをリニューアルします。

URL は旧ホームページと同じです。

<https://quaternary.jp/>

新しいホームページはスマートフォンにも対応しておりますので、ぜひご活用ください。

また、SSL 化を行い、セキュリティもアップしました。まだ作成中のページもございますが、これから少しずつ修正していく予定です。旧ホームページも引き続きご覧いただけるように、新ホームページ内にリンクがあります。

新しいホームページでの不具合等がございましたら、広報委員会にご一報いただけますよう、よろしくお願い致します。

(広報委員会)

★★★ 情報発信を希望される方へお願い ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。
提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願い致します。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。

(2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報(こちらは HP のみの掲載となります)等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

(3) 第四紀通信の表紙用の写真(または作成した画像)を受け付けています。詳細は第四紀通信第 27 巻第 6 号の巻末をご覧ください。

(4) 第四紀通信は 2 月・5 月・8 月・11 月の初旬に刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・田村 亨・石村大輔・竹下欣宏・三田村宗樹
広報書記：岩本容子・奥村公弥子
日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176